

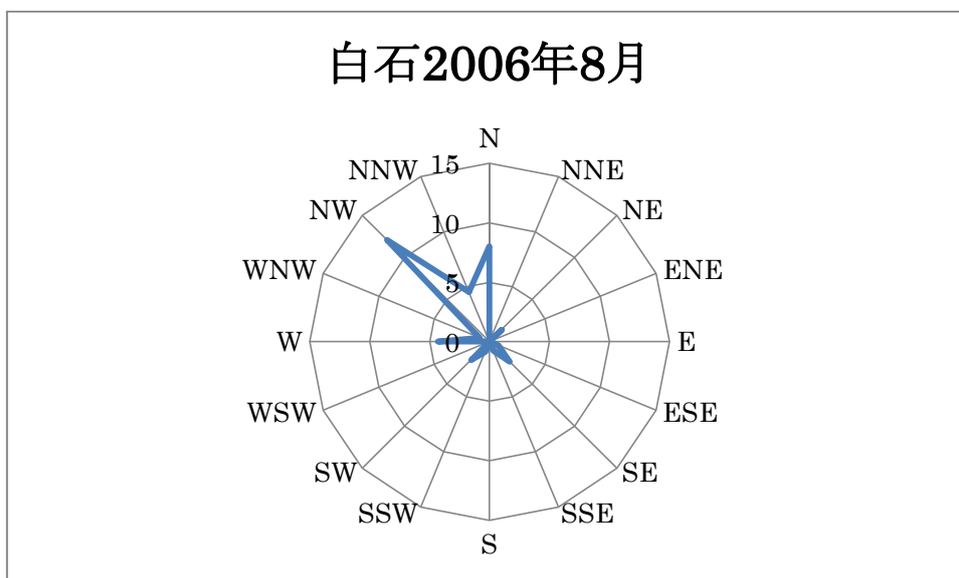
今季の有明海タイラギ漁復活の要因

2010年1月13日

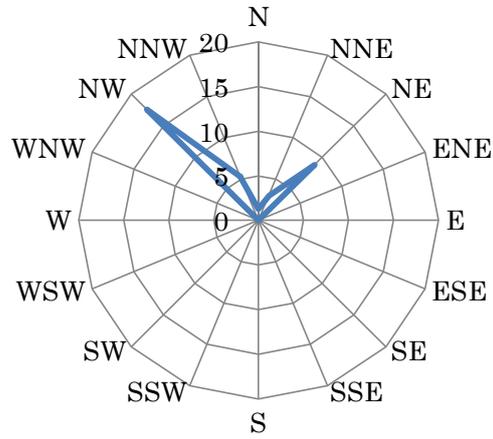
有明海漁民・市民ネットワーク 羽生洋三

佐賀県大浦のタイラギ漁師は「08年と09年にはたまたま8・9月に強い北風が吹いたために、有明海の赤潮が南部に運ばれ、奥部での貧酸素は2年連続して弱かった。このために08年夏に着底したタイラギが、今冬15センチ以上にまで育つことができた」と考えている。この証言を検証するために、有明海の風向風速を気象庁ホームページ http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php?prec_no=85&prec_ch=%8D%B2%89%EA%8C%A7&block_no=0829&block_ch=%94%92%90%CE&year=&month=&day=&view=

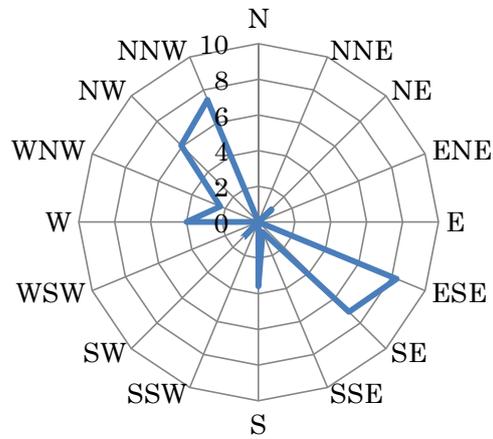
のデータで調べた。佐賀県白石町（標高4m）の最多風向別に毎日の平均風速を月単位で累計したところ、以下のグラフの通り08年・09年の8・9月は、06年・07年の8・9月同様に北西の風が卓越したが、その月間累計風速は06年・07年を上回る15m以上であった。よって「2年連続の強い北風」という漁師の証言はデータで確認されたとと言える。



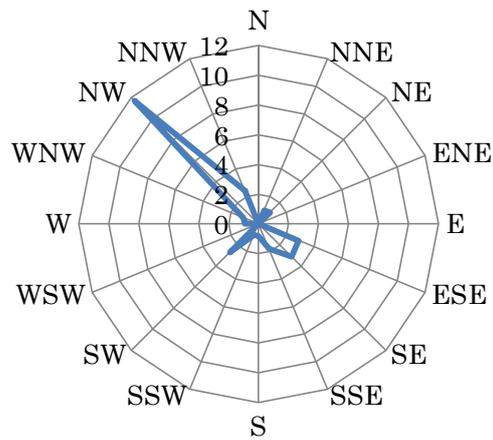
白石2006年9月



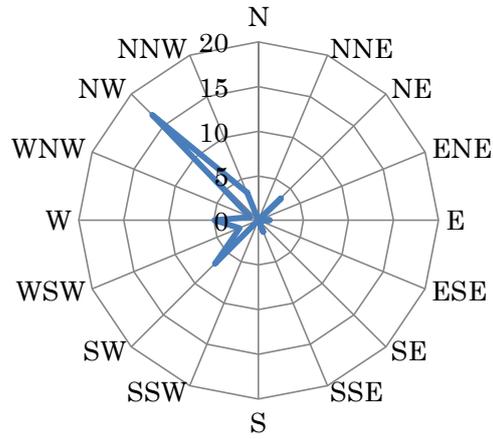
白石2007年8月



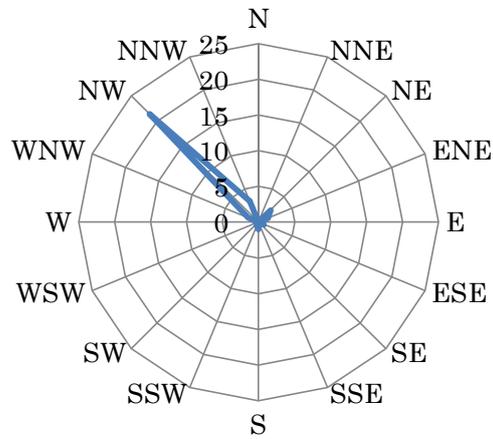
白石2007年9月



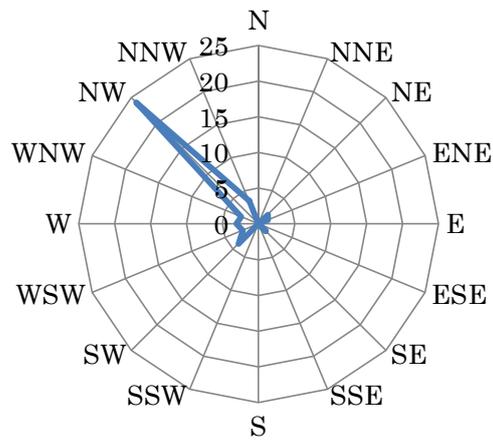
白石2008年8月



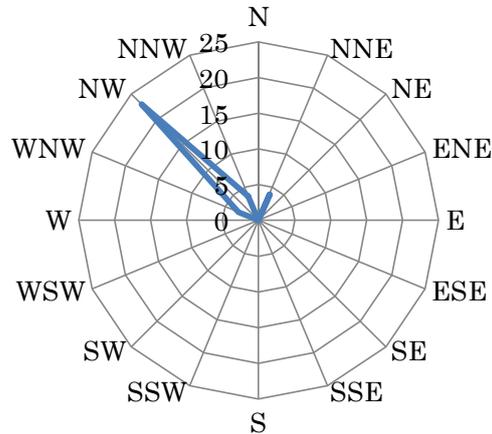
白石2008年9月



白石2009年8月



白石2009年9月



なお漁師の話では、今季 15 センチ以上の漁獲可能なタイラギが立っているのは、以下の場所ということである。しかも海底に直接着底したのではなく「モガイの貝殻に着底している」ということなので、底質が改善したわけではないことも明らかである。



以上から、1) 2年連続の夏場の強い北風で赤潮が南側に押し流され、2) その結果2年連続で有明海奥部の貧酸素が例年より弱まり、3) モガイ（サルボウ）とタイラギが貧酸素の影響を受けることなく生育できたこと、4) しかも本来なら海底の砂に着底するタイラギが泥化の進んだ海域で着底できたのは、干潟縁辺部でモガイも生育していたためであることを総合すれば、来年以降もタイラギが漁獲可能という保証はない、と言わねばならない。